

## 特別公開4

### 入江泰吉旧居

(いりえたいきちきゅうきよ)



#### ①歴史・概要

入江泰吉は、昭和6年(1931)に、大阪で写真店「光藝社」を開き、文楽の写真家として活躍しましたが、昭和20年(1945)3月に大阪大空襲に遭い、ふるさとである奈良に引き上げます。

入江泰吉旧居は、入江泰吉が戦後からなくなるまで暮らした場所で、戦後、疎開先から東大寺法華堂に戻る仏像を目撃し、アメリカに接收されるとの噂から、写真に記録することを決意し、以来、この地に住みながら、奈良大和路の風景・仏像・伝統行事の撮影に専念しました。

この水門町は、東大寺旧境内で今も土堀や古い家が並ぶ風情ある町並みが残るエリアです。入江泰吉は、この落ち着いた風情のあるこの場所で作品の構想を練り、暗室で現像を行うなどの仕事を行い、趣味の時間を愉しんだといいます。

#### ②見どころ

入江泰吉は、この家で余技を楽しんでいました。今回の展示では、余技作品である入江泰吉が絵付けを行ったお皿とお椀を展示しています。そのほか余技作品としては、ガラス絵や木端仏が有名で、通常展示されていますので、あわせてお楽しみください。



#### 入江泰吉旧居

奈良大和路を愛し、撮り続けた写真家の入江泰吉が約40年暮らした住まい。入江泰吉の愛用品や余技作品を展示しています。

🕒 9時半～17時(入館は16時半まで)

🗓 毎週月曜日、祝日の翌平日

🎫 200円(高校生以下無料)、団体割引あり  
奈良市内在住の70歳以上の方無料